

# 人形芝居の研究 目次

## 人形芝居の研究

一 紋下といふ位置	一			
二 番付の読み方(太夫の部、一)	一〇			
番付の形式	庵の位置	春太夫系統	五段組織の事	
三 番付の読み方(太夫の部、二)	十九			
狂言の立て方	付け物	化け物	彈出し	大序といふ事
人形芝居の二部制度	化物の元祖	太夫付三昧線	みす内で語	
る端場	小あげ			
四 番付の読み方(太夫の部、三)	二六			
小あげの異例「沼津」	落合	語り場切り方の比較	奥と切の別	
樂屋の情實と番付の書き方	二段目語りから師匠	三段目と四段	目との輕重	

## 五 三味線欄の読み方

三味線彈は女房役 「澤」字の書方三種類 座名は明治五年の產物  
三味線の紋下 その權奥は豊澤園平 三味線彈位置の読み方  
頭書「三味線」の書き方 三味線道の故實

## 六 人形遣ひの位置の読み方

三業紋下の始り 二葉の異つた番付 人形遣ひ本位の書方 場割  
本位の書き方 三味線の読み方と人形の読み方は逆 中軸一字

## 七 人形の發達と人形遣ひの風俗

三人遣の始 人形舞臺の黒色 人形出遣ひに古今二様の意味 黒  
子の寸法 人形の下駄 足と左遣ひ 人形遣の修業 三人遣  
の集中點 腰のひねり 「死んだ目だまを指先で生かす」 三業の  
イキと問

## 八 人形遣ひの修業と其専門

人形は幼少から 人形の類型と近世のその遣ひ手 「日向島」の話  
荒もの 紋十郎の藝 五代目菊五郎の紋十郎評 頭の品目  
人形遣の癖

## 九 人形の構へといふ事

頭の名稱と分類難……歌舞伎と人形の交渉影響……名作「非人」……人形の動的方面……三名人のお園……江戸系統の構へと本格的の構へ……鐵砲ざし

## 十 人形の足の「構へ」と手の種類……………八〇

鳥居立……表象的の人形の藝術……型と新工風……ツキアゲ……手の種類……人形の手入……「奥場」と「とや觸」……古式は廢滅し新制度がならぬ現狀……奥役の無識……眞の奥役手代の滅亡

## 十一 文樂座の歴史……………八九

淡路の素義……寛政年度……高津新地……北堀江市の側の芝居……稻荷東の芝居或は北の芝居……天保の改革……宮地芝居の取扱ひ……清水町の濱へ……稻荷へ復歸……松島へ移轉……名人團平の退座……御靈へ移轉……松竹の手へ……松竹の無謀……淨るりを知る者が愛す……古典藝術と營利會社

## 十二 因講の歴史と淨るり神社……………八九

伊勢詣り講中から……四代目長門太夫自筆の記録……因講に「組合」の色彩……文書に見えた因講は寛政九年三月……因講他國儀定記……因講の申合……天保山冥加金助力……年行司……因講の委員制度……淨るり神社の創祀は明治九年三月

## 三 文樂座の危機——説經讀語一時

蟬丸宮配下説經讀語座の組織……文樂座太夫の意氣……休業……東奉行で負公事……西奉行で勝公事……西奉行の内山彦次郎……三代長門太夫の苦心……書御の「繪本太功記」……當時の興行苦心……その興行刷新……「竹子集」の皮肉

## 人形芝居の博物館的保存

その三つの方法……人形舞臺の映畫撮影……滑るりのレコード・ズング……人形芝居の記録の完成……九日會の成立

## 團平節付の苦心と「彦六」の由來

三代清七と團平……「ヌエテ」の主張……「彦」は貧乏……明鳥の「彦六」……柳適初代二代の混淆……團平の逸事……十人斬の三味線……松江の客舎で完成

## 名人團平と「壺坂」

團平作曲中の傑作……壺坂はちか女の作に非ず……作者と誤傳さるゝ妻女ちか女……初演は島太夫……三味線の初演は豊澤新三郎……二度目の作曲……大隅太夫の語り物……床で死んだ團平……團平の絶筆……團平

七代目を繼いだ野澤吉兵衛

一四

吉三郎と吉兵衛……吉三郎と吉彌……努力の人……壁の餞別の代役が登  
龍門……山緒深い「堀川」と襲名の狂言

焼けた文樂座の断片

一五〇

白晝の出火……元候補地へ飛火……大正十五年十一月廿九日午前

繪入八行本の發見

一五

淨るり本の解説……加賀様の底本……底本の繪入……本朝中古花鳥傳……  
義經東六法……義經懷中硯

「薩摩守忠度」の上演時代について

一五三

貞享三年二月四日

「今川了俊」の初演年月に就いて

一五六

終行に 貞享四年丁卯正月吉祥日  
奥付に 貞享三年丙寅初冬吉辰

人形淨るりと泉州堺

一六

人形淨るりの新作に可能性なし

一七

人形芝居當面の事

一八

近松淨るりの再吟味……東風と西風……文樂座の診察……「時」の力……  
幕内の無氣力……句佛師の斷想私錄……能樂と人形淨るり……紋下九  
段目の代役……興行師の營利一點張主義……仕打の耳と句佛師の斷想私錄  
興行の標準と斯道の衰態……その月暮しの松竹……藝術的良心の缺  
如……人形の擁護方法……旅興行の今昔

義太夫協會創設主旨

二〇

必要の所以……會則……本會員の申合規定

人形の頭（カシラ）の話

二二

分類の非科學的……朱の集大成が必要……朱の國勢調査……文樂座に初  
演の「壺坂」と大隅太夫と玉造……澤市は「又平」……八陣の正清の頭……  
津太夫は園七……攝津は文七……一頭一役の頭……金時と鬼若……カ  
シラとアタマ……文藝家の鑑賞眼……人形部分のテクニック……眉、眼、

口の開閉……赤い火口

## 人形の遣ひ方とその組立

衣裳を脱がした人形……頭……胴……掌一つの工風から人形のしなが出る……ツキアゲの效果……その使ひ方

## 「人形師」研究の断片

「細工方」の意味……頭取と人形師……市野谷九十郎……「人形細工人」として番付に載つた始……古今の名人……操芝居の所在と創立年度……近世の人形師は手間取職人……木屎糊の修膳……人形の面影と女房

## 太夫三味線弾の住所と河原者

天保の改革と人形芝居……人形遣は河原者同様……太夫三味線は格別の取扱……西奉行の内山彦次郎……説經讚語座の根蒂……太夫三味の住所

## 人形芝居の臺帳としての近松の淨るり

「讀るもの」と「臺帳」……近松の再吟味要求……古典復活の舞臺……「封印切」と「鬼界ヶ島」……節と舞臺

## 名人團平は初代か二代か

園平名は二代目廣助の前名……加古家の過去帳……番付面の園平名……  
植烟九市へ二代園平名貸與の覺書の下書

## 人形淨るり番付の始

半切の瓦版式……「許多脚色帖」にある享保度の古番付……現今發見したう  
ちでは享保三年正月が最古

## 新築移轉以來の文樂座

校正を終りて……近松座跡の新築……人形芝居は大正十一年二月で一段落  
……根城の燒失……新築以來の好景氣……新築開場前の悲觀說……好  
景氣の原因七ヶ條……或は八ヶ條……昭和五年上半期の興行日數……挿  
話……新築後の藝術的方面……掛合の不合理……淨るり界空前の「切場」  
の分割……太夫の無力非力……白井松竹三年前との聲明を反古にする……  
新文樂の見物……人形偏重時代……人形遣ひの無自覺……「戻橋」の惡趣味

## 國家の保護を受くる操の實體は?

國家保護の手が動く——文樂へ

操評判「猿轡」……

## 目 次 (終)